長沼町総合振興計画審議会　福祉部会（第２回）議事概要

開催日時：平成２２年１２月２２日（水）9:05～11:25

開催場所：長沼町役場　第１会議室

【出席者】

＜審議会委員＞５名

後藤部会長、桂委員、十河委員、田近委員、安田委員

＜長沼町役場総務政策課＞

高井企画官、長井補佐

【会議録】

１　開会

後藤部会長

本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。計画の案につきまして、引き続きよろしくご審議をお願いいたします。

２　議事（後藤部会長が議長となり進行）

後藤部会長

事務局から説明があればどうぞ。

高井企画官

【資料について説明】

後藤部会長

節ごとに区切って議論したほうがよいですかね。では、第１節の保健の充実から。

主な施策の「生涯スポーツと連動した町民の健康づくり活動を支援します。」について、何か漠然としている印象。「町有の運動公園やスポーツ施設を有効に利用し、生涯スポーツと連動した町民の健康づくり活動を支援します。」としたほうがよいのではないか。

田近委員

「各地区保健衛生推進員の活動促進を図ります。」とあるが、推進員の皆様は一生懸命歩いて活動している。相手方が関心を示さない状況。また、保健師や豊生大学などで健康づくりに関する説明をしっかり行っている印象がある。

後藤部会長

では、第２節「医療の充実」について。ここは前回でよく議論したところですが、田近さんいかがでしょう。

田近委員

以前に比べて、精神的な強さ、耐えられる力が育っていないように感じる。精神的な病気にかかる方が多く、精神医療の充実が必要ではないだろうか。また、精神については医師による影響力が大きいと聞いている。例えばホロナイクリニックさんでは、精神的なケアをよくしてくれていると聞いた。

十河委員

空知総合振興局では精神科専門の保健師がいる。民生委員でうつ病に関する講演会を行い

保健師も勉強していたが、専門の人がいるか、あるいは何度か町に来てくれればと思う。

桂委員

だれか一人でも、自分の内面的なことを聞いてくれる人がいればいいのだが、その一人がなかなかいない。例えばりふれで「心の相談室」のような、気軽に相談できる人・ところがあれば良い。妹が札幌でボランティアの登録をしているが、仕事の依頼は「定山渓の病院で苦情等を聞くこと」であった。これからは、心のケアが必要。

田近委員

（民生委員をしているが、）相談を受ける際、電話で１時間くらい話をする老人の方もいる。元気なのだが話ができる友人がおらず、さみしさがあるのかなと感じた。

安田委員

心の健康づくりは、確かに、気軽に相談できるような窓口があれば良いと思う。そのような窓口をつくるにはどうしたらよいか町で検討すべきではないか。

桂委員

これからの社会は、助けあう、支えあうということが必要であり、医療・福祉についてもそれが言える。集合的な心の寄せ合いである。それを、この計画で見えるような形にしたら良いのではないか。

私の知っている方が由仁の高齢者施設に入り、そこの草が茂っていた野菜畑に手を入れて作業をしたら、他の方も加わり、皆で草取りなどをするようになったと聞いた。

病院については、大きなところだと先端技術や医療機械などもあり安心感がある。個人開業医も技術はあるのだが、個人では手に負えない病気は大きな病院に紹介せざるを得ない。町立病院もそのあたり、運営の円滑化を検討しないといけないが、難しいところではないか。

安田委員

町立病院の医療の充実はすべきだと思う。ただ、結果的に過大な投資とならないようにしなければならない。慎重に検討を重ねてほしいと思う。

後藤部会長

第３節「地域福祉の増進」について。

田近委員

ボランティア活動に参加する人も、高齢化が進んでいる。年３回、りふれで食事会を行っているが、２階で調理をし１階に運んでいるので、行き来が大変である。若い人がボランティアに参加できるような仕組みにしてもらいたいが、現役で働いている人はなかなかボランティアまで手が回らない状況なんだろうなと感じる。

食事会を楽しみにしている高齢者もいるので、このまま活動を続けたいと思うが。

また、娘と一緒に暮らしたいと、他町から引っ越してきた年輩の方がいたが、福祉の面で長沼町はどうなんですかと細かく尋ねられた。福祉については町民の方の関心が高いと感じる。

桂委員

長沼町は交通事故が多いが大きな犯罪は少ないと感じる。安心して豊かな気持ちになれる町になるような、環境づくりが必要。

（福祉とは直接関係ないかもしれないが、）馬追山は自然の財産であり、その地の利を活かして、将来とも元気な町であってほしい。荒廃地については白樺などを植えると、景観にも

良いのではないか。

後藤部会長

第４節「高齢者福祉の充実」について。現況と課題のところで、「生涯学習、産業分野と連携し・・」とあるが、生涯学習だけでは漠然とした感じを受ける。「豊生大学や趣味教室等の生涯学習、産業分野と連携し・・」としたほうが良い。

桂委員

先日あった、団体と町長とのまちづくり懇談会にて、ボランティアで行っているたまり場「ほっこり」について、町長のほうからも「行政側も何か応援できることがないだろうか」という話があった。高齢者はもちろん、病院帰りの人がバスを待つ場所、学校帰りの子どもが集まる場所等となるのが理想で、年間を通して開設している場所が２，３ヶ所できるとよいと思う。「たまり場づくり」が、今、全国生涯学習センターの目標となっている。また、商工会でもたまり場の構想があったようだ。町全体で取り組める仕組みを考えていけるとよい。

町の案内所をたまり場に設けることも考えられる。今、開けているときは、誰かが常駐していないといけないので担当している人の負担が非常に重い。

十河委員

私も行ったことがあるが、子どもとお年寄りが将棋をするなど世代間を超えた交流があり、また、子どものしつけの場所ともなっており、大変いい場所と感じた。利用者が多いし、ボランティアだけでは運営が難しいと思う。

田近委員

子どもも多いので、常時誰かがいないといけない。

後藤部会長

「世代間の交流」をこの計画でうたってほしい。昔の遊び、ものづくり体験、生活の知恵、地域の歴史等を子どもに伝えていくのも高齢者の役割である。舞鶴地区では世代間交流を行っている。

桂委員

個人的には、馬追山の遊歩道散策に高齢者の方もぜひ体験いただきたいと思う。馬追山の魅力に触れるほか、空気がおいしいし、健康づくりにもなる。

後藤部会長

高齢者の運転免許証返納が増えている。今後、高齢者の比率が増え、いわゆる買い物難民が増えることが予想される。デマンドバス、福祉バスの充実についても、ここでうたったほうがよい。喜茂別町では１６の集落で、ボランティアで送迎するシステムを始めている。

後藤部会長

第５節「児童福祉・子育て支援の充実」について。

桂委員

この件について、国の施策に一貫性が無いと感じる。子どもたちを守りたいのか、増やしたいのか、それとも親を働かせたいのか。例えば「少子化の緩和のため、昨年より子どもの数を１割増やしたい」など、具体的なビジョンを持って取り組まないと、場当たり的に感じる。

町でも、例えば「何年か住んでいて、３人目を産めば百万円を支給」など、具体的なビジ

ョンが見えてくると面白いのではないか。長沼に来てよかった、住んでよかったと思えるようになれば、定住化にもつながる。

また、保育園について、町外の幼稚園、保育園に通わせる保護者もいる。保育料の問題もあると思う。他町に流れないようにしてほしい。

十河委員

送迎など、交通手段の問題もあるのではないか。南幌の幼稚園バスが走っているのをよく見る。

田近委員

教える内容、遊びの内容が濃いとも聞いたことがある。

桂委員

子ども、学生、老人に共通することだが、交通アクセスが不便である。ながぬま内科の送迎サービスはすごくありがたいと感じる。

田近委員

デマンドバスのサービスも、きめ細かくできればよいと思う。

十河委員

現在は前日までの電話予約が必要で、まだ利用者が少ない状況と聞いた。

後藤部会長

耳が遠いと、電話するのが嫌という方もいる。

桂委員

今、他人の子が悪いことしても大人が叱らない。この社会構造は変えなければいけないと思う。逆に、子どもがいいことをしたら誉めてあげるべきで、認めてあげることが健全な育成につながる。子どもは誉められたことは一生忘れない。逆に、いいことをしても何もないと、孤独感を感じる。子どもを表彰する条例なんかがあっても良いのではないか。

後藤部会長

誉めてあげるような体制はつくってあげたいと思う。また、子どもが何かで悩んだときに気楽に相談できる、子ども１１０番みたいなところがあるとよい。

※次回の福祉部会は、１／１１（火）９：００～　役場２階第７会議室で行う。